

平成 23 年 11 月 4 日

ワン・ワールド・フェスティバル開催に伴う 出展団体およびプログラムを募集します

(財)大阪国際交流センターが参画しているワン・ワールド・フェスティバル実行委員会では、市民に広く国際協力に対する理解を深めることを目的に、2011 年度「ワン・ワールド・フェスティバル」を、平成 24 年 2 月 4 日(土)、5 日(日)に開催します。

それに伴い、次のとおり、出展団体の募集およびプログラムの募集を行います。「共に生きる世界をつくるために一人ひとりができること」をテーマに開催する本フェスティバルにおいて、広く市民のみなさんの参画をお待ちしています。

・ 応募受付期間 11月4日(金)～11月28日(月)

・ 出展団体募集数(予定)

- | | |
|--------------------------|------------------|
| ①NGO/NPO活動紹介展(90団体) | ④民族料理模擬店(20団体) |
| ②ODA実施機関・政府機関活動紹介展(10機関) | ⑤国際機関活動紹介展(10機関) |
| ③高等教育機関活動紹介展(5機関) | ⑥企業活動紹介展(10社) |

・ 説明会日程 *参加を希望される団体は、必ずいずれかの説明会にご出席ください。

- ①11月16日(水)18時30分～20時30分
- ②11月17日(木)18時30分～20時30分
- ③11月24日(木)18時30分～20時30分

・ 説明会会場 大阪国際交流センター会議室(大阪市天王寺区上本町8-2-6)

・ 募集する企画案の内容(予定)

- ① 東日本大震災支援をテーマとするプログラム
- ② 社会起業家やソーシャルビジネスなど国際協力の新しい取り組み
- ③ CSRをテーマとするプログラム
- ④ 企業や行政など多セクターとの連携事例の紹介
- ⑤ 多文化共生をテーマとするプログラム
- ⑥ スタディツアーやボランティアなど人材育成の取り組み
- ⑦ 国際理解教育・開発教育の取り組み
- ⑧ 環境をテーマとするプログラム
- ⑨ 異文化理解のためのプログラム
- ⑩ 各団体の社会的課題解決への取り組みを紹介するプログラム

出展団体によるプログラムは、来場者の視点に立ち、今まで国際協力に関心のなかった方に、少しでも関心をもっていただけるよう、各団体が取り組む活動や上記のテーマを切り口とした企画案を歓迎します。

・ 申込み・問い合わせ先

ワン・ワールド・フェスティバル実行委員会 事務局: (特活)関西国際交流団体協議会

〒552-0021 大阪市港区築港2丁目8-24 pia NPO2階

TEL 06-4395-1124 FAX 06-4395-1125 専用 TEL 080-6130-2605

E-mail: onefes@interpeople.or.jp <http://www.interpeople.or.jp/owf> ブログ <http://blog.canpan.info/owf/>
＜ワン・ワールド・フェスティバルの概要＞

- 1 開催日時 2012年2月4日(土) 10時～17時・5日(日) 10時～17時
- 2 開催場所 大阪国際交流センター(大阪市天王寺区上本町8-2-6)
最寄駅=大阪市営地下鉄谷町九丁目駅、近鉄大阪上本町駅下車
- 3 テーマ 「共に生きる世界をつくるために一人ひとりができること」
- 4 開催主旨 ワン・ワールド・フェスティバルは、環境破壊、難民、貧困など世界中で起きているさまざまな問題を解決するための国際協力の大切さを認識し、多様な団体や企業の活動を通して国際協力の現状を知ることを主な目的として1993年より開催し、19回を数える西日本で最も規模の大きな国際協力のお祭り。
「共に生きる世界をつくるために一人ひとりができること」をテーマに、関西を中心に国際協力に携わっているNGO、ODA機関、国際機関、教育機関、自治体、企業などが協力して、毎年、約140団体が参加、約60のプログラムが生まれ、15,000人を越える方が来場する。国際協力が私たちの生活と密接に関係していることを知り、一人ひとりが問題解決のために何ができるのかを考え、日頃の行動につなげることへのきっかけづくりの場として開催している。
- 5 主催 ワン・ワールド・フェスティバル実行委員会(事務局=(特活)関西国際交流団体協議会)
- 6 事業の特色
 - (1) 国際協力に携わる関西一円の主要なNGO/NPOと、全国から政府機関、国際機関、高等教育機関、企業(社会貢献担当)など多様な団体・機関が一堂に会し、活動を紹介する関西で最大の国際協力の催し。2010年度は17,500人が来場、146団体が参加!
 - (2) 実行委員会は、NGO/NPO、ODA機関、国際交流協会、教育機関、企業など多様な団体、機関が主体的に参加。発案段階から事後処理までのプロセス重視、ネットワーク形成の機会に。
 - (3) 一過性のお祭りではなく、日常の活動理念を反映したプログラムを企画し、事後につながる事業として、取り組んでいる。
 - (4) ボランティアの主体的な参加と活躍。フェスティバルの企画・運営は公募のボランティアと実行委員会が担当するが、例年約200人のボランティアが参加。20代の若者や社会人に加え外国人留学生、シニア層が多いことも本事業の特徴。
 - (5) 「協働」の取り組みであること。
他分野の団体間、NGO/NPOとODA機関、企業、教育機関などが連携して事業に参加。
 - (6) 多様な市民の積極的な参加。会場に来る市民は「ボランティア活動に関心がある」「国際協力に参加したい」「国際理解教育の情報がほしい」「外国文化にふれたい」など、何らかの関心や目的を持って来る人が多く、会場に1日中いる人も多い。主催者側もそうした市民の関心に対応するため、「見る」「聞く」「味わう」「考える」「話し合う」「体験する」といったことを行うことのできるプログラムを実施する。

以上